

(2011年度)

4 日本史問題 (60分)

(この問題冊子は12ページ，4問である。)

受験についての注意

1. 監督の指示があるまで，問題冊子を開いてはならない。
2. 携帯電話・PHSの電源は切ること。
3. 試験開始前に，監督から指示があったら，解答用紙の右上の番号が自分の受験番号かどうかを確認し，氏名を記入すること。次に，解答用紙の右側のミシン目にそって，きれいに折り曲げてから，受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し，机の上に置くこと。
4. 監督から試験開始の合図があったら，この問題冊子が，上に記したページ数どおりそろっているかどうか確かめること。
5. 解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで，そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
6. 筆記具は，HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能，計算機能，辞書機能などを使用してはならない。
7. マークをするとき，枠からはみ出したり，枠のなかに白い部分を残したり，文字や番号，枠などに○や×をつけたりしてはならない。
8. 訂正する場合は，消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
9. 解答用紙を折り曲げたり，破ったりしてはならない。採点が不可能になる。
10. 試験時間中に退場してはならない。
11. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
12. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 下記のA～Fまでの短文は、仏像彫刻に関する各時代の特徴を述べたものである。それらの短文を読んで後の設問に答えなさい。

- A. 彫刻では木などの芯材に粘土を固定した塑像や、布の上に漆で塗り固めた乾漆像の技法が中心であったほか、金属製の作品にも見るべきものが多い
- B. この時代の彫刻は、第一に金属製、ついで木彫の作品が多く残されているが、一部を除いて類型的な作品は少ないとされる
- C. 仏像彫刻では木彫の作品が多数を占め、量産に適した造像法も生まれた
- D. 仏像の材質は、金属・木・土など多様であったが、共通する独特な清新さの表出がこの時代の特色といえる
- E. この時代も木彫が主流であるが、相貌の険しい表現の作品も多く、背景となった仏教の特質を顕著に反映したものとなっている
- F. 前代からの造像技法を踏襲した木彫が多く作られたが、残されている作品の水準は前代には及ばず、個性的表現でも次代に及ばない

問1 前記の短文A～Fについて、同時期の文化的事情をしめすものを下記①から⑧の中からそれぞれ1つ選びなさい。

- ① 高松塚古墳壁画はこの時代の作品である
- ② 絵巻物が流行し、扇面古写経などもつくられた
- ③ 「書」が尊ばれ、三跡(蹟)などが現れた
- ④ 神像彫刻も造られ、この時期の代表作として薬師寺の僧形八幡神像がある
- ⑤ 個人を写實的に描く「似絵」が流行した
- ⑥ 観心寺金堂はこの時期の建築である
- ⑦ 伝説的な仏師の作品とされるものも残っているが、仏像彫刻においては全般的に中国や朝鮮の影響が顕著に認められる
- ⑧ 過去現在絵因果経はこの時代の作品である

問2 前記の短文A～Fについて、どの文化の時期に属するかそれぞれ1つ選びなさい。

- ① 国風文化 ② 白鳳文化 ③ 弘仁・貞観文化
- ④ 鎌倉文化 ⑤ 院政期の文化 ⑥ 南北朝の文化
- ⑦ 飛鳥文化 ⑧ 天平文化

問3

1) 短文Aの文化に帰属する用語を2つ選びなさい。

- ① 室生寺五重塔 ② 法隆寺夢殿 ③ 性霊集
- ④ 帝紀 ⑤ 類聚国史 ⑥ 聖林寺十一面観音像
- ⑦ 定朝 ⑧ 小野道風 ⑨ 法隆寺金堂
- ⑩ 文章経国の思想

2) 短文Bの文化に帰属する用語を2つ選びなさい。

- ① 寄木造 ② 万葉集 ③ 法隆寺玉虫厨子
- ④ 創建四天王寺 ⑤ 一木造 ⑥ 南都六宗
- ⑦ 正倉院宝庫 ⑧ 新薬師寺十二神将像 ⑨ 日本霊異記
- ⑩ 芸亭

3) 短文Cの文化に帰属する用語を2つ選びなさい。

- ① 観心寺如意輪観音像 ② 神護寺両界曼荼羅 ③ 室生寺五重塔
- ④ 水鏡 ⑤ 往生要集 ⑥ 寝殿造
- ⑦ 梁塵秘抄 ⑧ 中尊寺金色堂
- ⑨ 元興寺薬師如来像 ⑩ 三教指帰

4) 短文Dの文化に帰属する用語を2つ選びなさい。

- ① 大宝律令 ② 唐招提寺鑑真像 ③ 風土記
- ④ 飛鳥寺釈迦如来像 ⑤ 懷風藻 ⑥ 法隆寺金堂壁画
- ⑦ 法隆寺金堂釈迦三尊 ⑧ 続日本紀 ⑨ 興福寺阿修羅像
- ⑩ 白氏詩卷

5) 短文Eの文化に帰属する用語を2つ選びなさい。

- ① 屏風土代 ② 法界寺阿弥陀如来像 ③ 日本書紀
- ④ 慶滋保胤 ⑤ 顯戒論 ⑥ 菅家文章
- ⑦ 竹取物語 ⑧ 和漢朗詠集 ⑨ 東大寺戒壇院四天王像
- ⑩ 薬師寺吉祥天像

6) 短文Fの文化に帰属する用語を2つ選びなさい。

- ① 土佐日記 ② 末法思想 ③ 富貴寺大堂 ④ 金槐和歌集
- ⑤ 沙石集 ⑥ 釈日本紀 ⑦ 白杵磨崖仏 ⑧ 巨勢金岡
- ⑨ 藤原佐理 ⑩ 離洛帖

7) 短文Fの文化に帰属する用語を2つ選びなさい。

- ① 三仏寺投入堂 ② 富本銭 ③ 経国集
- ④ 白水阿弥陀堂 ⑤ 善光寺本堂 ⑥ 西本願寺飛雲閣
- ⑦ 文正草子 ⑧ 東大寺南大門 ⑨ 和同開珎
- ⑩ 唐招提寺金堂

2 次の a) ~ l) に掲げた A 項・B 項の人物は、ある共通する事柄(ア)~(シ)によって結びつけることができる。これについて、以下の問いに答えなさい。

A 項	— () —	B 項
a) 源実朝	— (ア) —	栄西
b) 日蓮	— (イ) —	北条時頼
c) 俊苧	— (ウ) —	四条天皇
d) 道元	— (エ) —	懷奘
e) 北条時宗	— (オ) —	無学祖元
f) 慈円	— (カ) —	後鳥羽上皇
g) 重源	— (キ) —	陳和卿
h) 明恵	— (ク) —	法然
i) 北条泰時	— (ケ) —	北条重時
j) 北条時頼	— (コ) —	蘭溪道隆
k) 法然	— (サ) —	親鸞
l) 信濃前司行長	— (シ) —	生仏

問 1 a) ~ l) の空欄(ア)~(シ)に当てはまるもっとも適切な事柄を、次から1つずつ選びなさい。

- | | | |
|---------------|-----------|------------|
| ① 御成敗式目 | ② 笠置寺 | ③ 『平家物語』 |
| ④ 『東関紀行』 | ⑤ 『摧邪輪』 | ⑥ 『一遍上人語録』 |
| ⑦ 神本仏迹説 | ⑧ 円覚寺 | ⑨ 専修念仏 |
| ⑩ 『興禅護国論』 | ⑪ 『金槐和歌集』 | ⑫ 北山十八間戸 |
| ⑬ 『正法眼蔵随聞記』 | ⑭ 『十六夜日記』 | ⑮ 『山家集』 |
| ⑯ 『明恵上人樹上坐禅図』 | ⑰ 東大寺大仏 | |
| ⑱ 東大寺僧形八幡神像 | ⑲ 『立正安国論』 | ⑳ 泉涌寺 |
| ㉑ 『蒙古襲来絵詞』 | ㉒ 『愚管抄』 | ㉓ 永平寺 |
| ㉔ 久遠寺 | ㉕ 『喫茶養生記』 | ㉖ 建長寺 |

問2 問1で解答した(ア)～(シ)について、a)～l)それぞれにおけるA項・B項の関わりを説明したのとしてもっとも適切な文章を、次から1つずつ選びなさい。

- ① A項からB項へ、「京都の人々の中に謗難を加事候はゞ、此趣を御心え候て御問答あるべく候」との書状が送られた。
- ② A項は、1205年にこれを起草し、B項を批判して配流の契機を作った。
- ③ A項は、琵琶法師のB項と協力してこれを作ったという。
- ④ A項が様々な恋愛遍歴の後に出家し、B項に倣って続ける修行の旅を書いた。
- ⑤ 1198年頃、B項がA項の求めに応じてこれを著し、教義の根本を説いた。
- ⑥ A項の孫弟子に当たるB項がこれを創建し、足利尊氏からも寄進を受けた。
- ⑦ A項の弟子であるB項は、1283年にこの仏教説話集を著した。
- ⑧ B項は南宋の出身で、A項の招きに応じて1279年来日、これを創建した。
- ⑨ A項のこの教えに共鳴したB項は、そのために「地獄におちたりとも、さらに後悔すべからずさふらふ」と述べたという。
- ⑩ A項はB項の指導を受け、700首以上を含むこの歌集を著した。
- ⑪ A項はこの書物を著し、B項の立場を批判した。
- ⑫ B項はA項の弟子であり、ハンセン病患者の救済のためにこれを建てた。
- ⑬ B項はA項の弟子であり、師の言行を記録してこの書物を著した。
- ⑭ B項に仕えた歌人であるA項は、争論解決のために鎌倉を訪れこの紀行文を著した。
- ⑮ 鎌倉を訪れて将軍A項とも面会したB項は、1500首以上を含むこの歌集を著した。
- ⑯ B項は宋の出身で、A項の求めに応じ、これを修復した。
- ⑰ これは、A項に近侍したB項が、師の姿を描いたといわれる。

- ⑱ この書物は、A項がB項へ提出した建白書である。
- ⑲ 1201年、A項の命を受けて、B項が造立した。
- ⑳ A項はこれを著してB項に献上し、その計画を諫めようとしたといわれている。
- ㉑ このなかに活躍の描かれたA項は、鎌倉でB項に直訴し恩賞を与えられた。
- ㉒ A項がこれを再興した後、B項の陵墓造営を契機に「御寺」と呼ばれるようになった。
- ㉓ 御家人B項の援助を受けてA項が創建し、曹洞宗の中心道場となった。
- ㉔ 佐渡から戻ったA項が、豪族B項に請われて移住し、この中心道場を建てた。
- ㉕ B項は、中国からのある将来物をもとにこれを著し、A項に献上した。
- ㉖ B項は南宋の出身で1246年に来日、A項の帰依を受けてこれを創建した。

問3 次に掲げた史料ともっとも関係の深い事柄を、a)～l)から1つ選びなさい。

去々年の兵乱以後、諸国の庄園郷保に補せらるる所の地頭、沙汰の条々
一 得分の事

右、宣旨の状の如くば、仮令、田畠各拾一町の内、十町は領家国司の分、
一丁^(町)は地頭の分、広博狭小を嫌はず、此の率法を以て免給の上、加徴は段別に五升を充て行はるべしと云々。……

3

次の文章は17世紀末から18世紀初め頃の文化について、とくに学問分野について述べたものである。各設問に答えなさい。

江戸幕府は統治のために上下身分秩序を重んじた。そこで封建社会を維持するために秩序を重んじる朱子学が歓迎された。家康時代に登用された学者の孫にあたる(A)は、五代將軍綱吉によって大学頭に命じられ家塾を湯島聖堂近くに移転した。その後、同じ系統の学問は全盛期を迎えた。加賀前田家に仕え後に綱吉の侍講となった(B)の門下から、新井白石、室鳩巢、あるいは朝鮮との外交に深い見識を示した(C)ら木門十哲と呼ばれる人々が輩出した。土佐の南学派では、はじめ僧籍にあったが儒学に傾倒し『素有文集』を著した(D)の系統から、土佐藩家老で新田開発や殖産興業に力のあった(E)や、神道説をとりいれ垂加神道を唱えた(F)らが輩出した。

また、明の王陽明の学問をとりいれた学派も活発であった。日本陽明学の祖であり、『翁問答』を著した(G)、および『大学或問』の著者であり社会批判によって幕府から幽閉された(H)などが、幕府の御用学問を批判し、認識と実践の合一という実践的道德を説いた。

明代に創設された朱子学に飽き足りず、日本の儒学を創始しようとする動きもあった。(あ)と題された書によって朱子学を批判し、古代の聖賢にもどることを主張した(I)は、赤穂に流され、その間、『中朝事実』を著して、明・清の中華という概念を批判した。また、「論語」や「孟子」の古典に直接立ち返ろうとし、経験的知識を重視した(J)は、京都の堀川で私塾としての(イ)を開いた。これらに触発された江戸の(K)は、柳沢吉保に仕え、綱吉に進講し、実証的な文献学によって天下の安泰を導く経世論を説いた。その説を継承して『経済録』を著し武士の商売奨励や専売制度を説いた(L)も重要である。

他の学問分野では、歴史学に進歩が見られた。林羅山父子の作で、神武から後陽成天皇までの編年体の史書である(い)や、徳川光圀のはじめた(う)は特に知られている。先の朱子学者のなかでも新井白石の(え)などが代表的な史書である。

さらに、諸学問の分野では、実用的な学問である(ロ)が発達し、稲生若水

の『庶物類纂』はその集大成とみなされる作品である。また、(M)の『農業全書』は商品作物の栽培法を詳述し広く用いられた。計算や測量の学として和算が発達し、(N)の『塵劫記』や、(O)の『発微算法』などが世に現れた。天文、暦学では(P)が『貞享暦』をつくり幕府に採用された。

国文学の分野では、和歌の用語にこだわり、また、俗語使用の正当性を説く『梨本集』を著した(Q)や、『万葉代匠記』の作者(R)の名があげられる。また、幕府の歌学方として『源氏物語』や『枕草子』の注釈書を書いた(S)がいた。

問1 空欄(A)～(S)に当てはまる語(人名)を次の語群から1人ずつ選びなさい。該当するものがなければXにマークすること。

[語群]

- | | | | |
|-----------|------------|------------|-----------|
| (1) 関孝和 | (2) 木下順庵 | (3) 平田篤胤 | (4) 雨森芳洲 |
| (5) 安藤昌益 | (6) 本多利明 | (7) 谷時中 | (8) 賀茂真淵 |
| (9) 頼山陽 | (10) 野中兼山 | (11) 塙保己一 | (12) 西川如見 |
| (13) 宮崎安貞 | (14) 宇田川玄随 | (15) 佐久間象山 | (16) 山崎闇斎 |
| (17) 本居宣長 | (18) 伴信友 | (19) 吉田光由 | (20) 高野長英 |
| (21) 中江藤樹 | (22) 熊沢蕃山 | (23) 北村季吟 | (24) 渡辺崋山 |
| (25) 林鶯峰 | (26) 山鹿素行 | (27) 柴野栗山 | (28) 尾藤二洲 |
| (29) 洪川春海 | (30) 稲村三伯 | (31) 林鳳岡 | (32) 伊藤仁斎 |
| (33) 土佐行広 | (34) 荻生徂徠 | (35) 太宰春台 | (36) 戸田茂睡 |
| (37) 藤田東湖 | (38) 佐藤信淵 | (39) 契沖 | (40) 鈴木春信 |

問2 空欄(あ)～(え)に当てはまる語(著作名)を次の語群から1つずつ選びなさい。該当するものがなければXにマークすること。

- | | | | |
|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 『読史余論』 | (2) 『政談』 | (3) 『聖教要録』 | (4) 『古史通』 |
| (5) 『大日本史』 | (6) 『本朝通鑑』 | | |

問3 空欄(イ), (ロ)に当てはまる語を次の語群から1つずつ選びなさい。該当するものがなければXにマークすること。

- (1) 明倫堂 (2) 古義堂 (3) 洋学 (4) 芝蘭堂 (5) 易学
(6) 本草学

4 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

明治政府は、明治(A)の政変の際に、天皇と政府に強い権限を与える憲法を制定する方針を立てていたが、(1)年には(a)をヨーロッパに派遣して、憲法の調査にあたらせた。彼は、ベルリン大学の(b), ウィーン大学の(c)などから主としてドイツ流の憲法理論を学び、帰国して憲法制定・国会開設および天皇・政府を守るための各種の措置に着手した。

まず(2)年に華族令を制定して、華族の範囲を広げて、旧公家・大名以外からも幕末・維新の功労者なども華族になれるようにして、将来の議会上院の土台をつくった。華族は、5つの爵位に分けられたが、その筆頭には(B)がきた。ついで、その翌年には(C)を廃止して、内閣制度を制定した。これにより、各省の大臣は、國務大臣として自省の任務に関して天皇に直接責任を負うだけでなく、国政全体に関しても内閣総理大臣のもとで閣議の一員として直接参画することになった。また、宮中の事務にあたる宮内省は内閣の外におかれ、同時に天皇を常侍補弼する(D)が宮中におかれ、制度的に行政府と宮中の区別が明らかになった。なお、初の内閣では、蔵相には松方正義^(a)、陸相には大山巖^(b)、文相には森有礼^(c)、法相には山田顕義^(d)がそれぞれ就任した。

地方制度においても、ドイツ人顧問(d)の助言を得て、(3)年には市制・町村制が公布され、また(4)年には府県制・郡制が公布され、政府の強い統制下ではあっても、地域の有力者を担い手とする地方自治制が制度的に確立した。

政府による憲法草案作成作業は、国民に対しては極秘裡に進められ、ドイツ人顧問の(e)などの助言を得て、行われた。この草案は、天皇が臨席する中で

(E)において審議が重ねられたが、(5)年に設置されたこの機関は、当初は憲法などの特別な法律・会計・条約などについて天皇の諮問にこたえるものであったが、憲法制定後も天皇の最高諮問機関と規定され、重要な国事は、すべてこの機関の承認を必要とした。結局、この機関の承認をうけて、翌年には大日本帝国憲法が發布された。

この憲法は、天皇が制定して国民に与える(F)という形をとっており、天皇および行政府にきわめて強い権限を与えていた。「神聖ニシテ侵スヘカラス」とされた天皇は、「国ノ元首ニシテ統治権ヲ総攬」する立場にあり、陸海軍の統帥、宣戦・講和や条約の締結など、議会が関与できない大きな天皇大権を有していた。こうして、いわゆる「明治立憲体制」が確立されるにいたった。

問1 上記の文章中の空欄(a)～(e)に当てはまるもっとも適切な人物を、以下から1人ずつ選びなさい。

- | | | | |
|----------|---------|---------|-------|
| ① ロエスレル | ② エッケルト | ③ ビスマルク | ④ ベルツ |
| ⑤ 伊藤博文 | ⑥ グナイスト | ⑦ 山県有朋 | ⑧ モッセ |
| ⑨ ナウマン | ⑩ 西周 | ⑪ ホフマン | |
| ⑫ ボアソナード | ⑬ メッケル | ⑭ 井上馨 | |
| ⑮ シュタイン | | | |

問2 上記の文章中の空欄(A)～(F)に当てはまるもっとも適切な語句を、以下から1つずつ選びなさい。

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| ① 一五年 | ② 国定憲法 | ③ 元老院 | ④ 内大臣 |
| ⑤ 侍従大臣 | ⑥ 男爵 | ⑦ 欽定憲法 | ⑧ 中枢院 |
| ⑨ 侯爵 | ⑩ 宮内大臣 | ⑪ 一四年 | ⑫ 公爵 |
| ⑬ 民定憲法 | ⑭ 大納言制 | ⑮ 行政官制 | ⑯ 一三年 |
| ⑰ 議政官制 | ⑱ 枢密院 | ⑲ 伯爵 | ⑳ 枢軸院 |
| ㉑ 宮中大臣 | ㉒ 一六年 | ㉓ 太政官制 | ㉔ 帝定憲法 |

問3 上記の文章中の下線(a)~(d)の人物にもっとも関係が深く、かつ内容が正しい事柄を、以下から1つずつ選びなさい。

- ① 閣内の国権派として欧化政策を批判した。
- ② のちに2度にわたって首相になった。
- ③ 当初の7人からなる元老とはならなかったものの、のちに追加された。
- ④ 西南戦争の際に熊本の鎮台を司令官として堅守した。
- ⑤ 現在の日本大学の前身校を創設した。
- ⑥ 初代の参謀総長を務めていた。
- ⑦ 岩倉使節団に随行した女子留学生の一人山川捨松と結婚した。
- ⑧ 土佐藩の出身であった。
- ⑨ 20世紀になってから、首相になった。
- ⑩ 肥前藩の出身であった。
- ⑪ 大日本帝国憲法発布の日に刺されて、翌日に死亡した。
- ⑫ 日露戦争時には朝鮮軍総司令官を務めた。

問4 上記の文章中の空欄(1)~(5)の出来事が起こった年は、西暦で何年か。以下から1つずつ選びなさい。同じものを何回選んでもよい。

- ① 1879 ② 1880 ③ 1881 ④ 1882 ⑤ 1883
- ⑥ 1884 ⑦ 1885 ⑧ 1886 ⑨ 1887 ⑩ 1888
- ⑪ 1889 ⑫ 1890 ⑬ 1891 ⑭ 1892 ⑮ 1893

